

巻頭言

変革の時代に求められる材料技術の役割

材料技術研究協会 会長 小浦 節子



今年は post コロナの生活が始まると思っていた矢先に、新型コロナウイルス感染症の第7波で急激な感染者の拡大が起り、収束までにはまだまだ時間がかかりそうな状況です。一方、今年は外出規制のない夏休みとなり、3年ぶりの夏祭りなどが各地で開催され、コロナとの共生が模索され始めたと感じています。人類はこれまでもウィルス危機のたびに進歩し、より強くなってきました。私たちは知恵を絞って、より良い生活の在り方を考えていく必要があります、本協会も材料の観点から新たな提案ができればと考えています。

材料技術研究協会では、会議や討論会など、すべてオンライン開催にしてまいりました。対面でないと意思疎通が図れないのではないかと、参加者の減少に繋がるのではないかなどと懸念しておりましたが、実際に行ってみると逆に良い面が明らかとなりました。移動の必要がないことによる参加者の増大や、活発な質疑応答がなされるなど、意外にもオンラインの良さを感じることができました。もっとも、懇親会のように親睦を深めるには対面が重要だと思えます。今後は、対面とオンラインのハイブリッドが望ましい姿のような気がしています。International Student Symposium (ISS)では、メタバースを利用したポスター発表の試みも実施いたしました。まだ使い慣れていないための不具合もありましたが、取り入れていく必要性を痛感しています。デジタル化の改革では、この度、編集委員長のご努力のおかげで、材料技術協会誌の論文等がJ-STAGE で公開されることになりました。全世界からのアクセスが容易となり、本協会での研究成果がより活用されるものと期待しております。

さて、with コロナ, post コロナの時代に必要とされる材料技術は何かを考え、今後は、一つの専門分野だけに拘らず、あらゆる観点から新たなイノベーション創出を目指し、また、若い人々の活躍を後押しできるような協会づくりを目指したいと、会長就任時に申し上げました。本協会から発信される論文等は、各種材料が必要とされる多くの分野に関わり、また分野横断的な材料技術に関するものとなります。特に、これまでの表面・界面に関わる技術に加えて、グリーン成長への取り組みや生命に関するものにも力を入れていきたいと思っています。カーボンニュートラルに向けたエネルギー・電力システムの次世代化に必要な材料開発、生命維持に必要な薬剤等の開発にも取り組む所存です。多くの皆様にご活用頂けるような有用な情報を発信してまいりますので、是非ご活用ください。また、次世代のサイエンティスト育成の場を提供することも考えております。将来を担う若者への教育も考慮した情報提供にも努めていきたいと思えます。

今後とも、あらゆる場で材料技術を提供できる集団として活動していきますので、皆さま、どうぞご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。